新しい生活様式における民生委員児童委員活動に向けて

News letter　MINSEI

Vol. 9　2022.11

横須賀市上町第2地区民児協の活動をご紹介

地区民児協の皆さん。主任児童委員が中心となって、地区社協や社会福祉推進委員と一緒にサロン活動をしています。

私たちがボランティアでお手伝いしました！

不入斗(いりやまず)中学校の皆さん

2年ぶりに復活した「なつまつり」

横須賀市上町第2地区民児協では、地区社協と共催で、0歳から未就園児とその保護者を対象とした無料の遊び場としてサロン活動「広場めだかっ子」を横須賀市総合体育会館サブアリーナで行っています。コロナ禍では活動をストップせざるをえませんでしたが、令和4年1月から2年ぶりとなるサロンを再開しました。

サロン再開に際しては、「万が一、コロナの感染が出たらどうしよう」「保育園もあるのに、ニーズはあるのだろうか・・」という迷いもありましたが、会場提供者である市行政の働きかけや、他地区でサロンを再開している様子を見て、周知先を小規模にする、感染対策を万全にする、参加者の住所と氏名を確認するなどの対策を講じて開催することとなりました。参加者からは「待ってました！」の声が聞かれ、安堵したそうです。

取材当日は8月26日。8月のサロン活動は特別で、例年「なつまつり」を開催します。この日は、輪投げ・ボーリング・お菓子つりと楽しいコーナーを設け、各コーナーでは参加賞を用意し、来場者を迎えました。また、夏休み中に開催する「なつまつり」は、以前から地元の不入斗中学校にも声をかけ、中学生ボランティアが参加してくれています。この日の中学生の参加は12人。地区社協会員でもある民生委員や社会福祉推進委員(※)、ボランティアスタッフ18名とともに、親子等18組（大人19人、子ども31人）を迎え、大盛況となりました。

広々した会場で、お楽しみをたくさん準備。

※社会福祉推進委員…横須賀市社協の制度で、市内各地域の地域福祉を推進するため、各町内会･自治会に設置。それぞれの地元地域では、民生委員活動への協力を中心に町内会･自治会活動にも協力し、全推進委員が各地区社協の会員として様々な活動に携わっています。

中学生と子どもとの温もりあるふれあい

最初は緊張していた面持ちの中学生も、経験豊かなスタッフと一緒に、親子を案内したりコーナーで対応するうちに少しずつ表情がほぐれていきます。

「なつまつり」の日は小学校も夏休み期間のため、兄弟姉妹での参加も多くあり、２人の息子さんを連れたお母さんも参加していました。最初はマットに寝ていた0歳児の赤ちゃんを、民生委員が自然と抱きあげてあやし、中学生ボランティアも、抱き方を教わりながら恐る恐る抱っこすると、その温もりに感激していました。その間、お母さんは安心してお兄ちゃんと走り回って遊ぶことができました。「普段は下の子にかかりきりになってしまうけど、長男においかけてもらえるなんて」と顔をほころばせました。

サロン終了後、中学生からは「はじめはどうなるかと思ったけど、楽しかった。皆さんはいつもこういう場で人を笑顔にしていてすごい」「子どもが苦手だったけど、子どもに折り紙を渡すなどの関わりの中で、少し克服できた」「子どもが可愛くて、将来にもつなげたいと思った」と素直な感想を話してくれました。参加した中学生の中には、小さなときに自分自身がこのサロンに来ていた子もいて、当時から活動しているスタッフに「あの時の様子を覚えている」と笑顔で話し、「来年も来ます」と帰っていきました。継続したサロン開催が次世代につながっている様子が見受けられました。

出し物のお手伝いもしながら、中学生が代わる代わる抱っこ。「あったかい！」「可愛い！」と、赤ちゃんは大人気。

カードを開くと、シールで飾れる立体ツリーが広がる力作です！

「会えなくても、気にかけているよ」の思いを込めて。サロンができない時期はクリスマスカードも活用しました。

大人も子どもも楽しい場だからこそ続けられます。

子どもとつながりを育むサロン活動

民生委員、ボランティア、子育て世帯と中学生、子どもが出会い、関わることで、地域での温かなつながりを育んでいるサロン活動。特に、中学生にもボランティアとして関わってもらうことで、中学生自身の体験の幅が広がり、また、サロンの場が活気づくエネルギーにもなります。横須賀市上町第2地区民児協・横須賀市民児協の佐野会長は「子どもの時期から地域の大人が関わることは健全な育成にもつながると考え、小さな時期からの関係構築を大切にしている」と話します。

参加スタッフからは、「自分の子どもは成人したけれど、地域の子どもの成長を見ることができることが喜び。子どもの方も覚えていてくれて、声をかけてくれる」「子育てに向き合っているお母さんを少しでも支えられたらと思って参加しているが、参加すると自分も楽しい」など、それぞれが持つ思いとやりがいを語ってくれました。

コロナ前には子育て世代向けの勉強会を企画したり、お母さん同士の出会う場となっていた子育てサロン。ウィズコロナの中でも、つながりを絶やさないよう活動が続けられています。

＊神奈川県社協 民生委員児童委員部会は、県・政令市の民児協が参画する協議体です。様々な地域性やきめ細やかな幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、県政令市の枠を越えて、交流、研修情報収集、意見具申など、スケールメリットを活かした協働事業の運営を行っています。
＊このニュースレターは、神奈川県内の民生委員児童委員向けに「新しい生活様式」に向けた委員活動やコロナ禍における委員の思いを発信するために、不定期に発行します。

HP：神奈川県社協民生委員児童委員部会

ツイッターアカウント：@kanagawa_syakyo

身近な地域で活動する民生委員児童委員のことを多くの方に知っていただけるよう、30秒のPR動画を作成しました。ぜひご覧ください！！